

## 本郷

武州豊島郡峡田領本郷村と称した。古くは湯島の内、その本郷であるので湯島本郷と称すべきところを、上を略して本郷と称えた。

## 元町

昔は豊島郡峡田領本郷村といい、本郷あたりの拝領地の内では早く拝領した地なので、元町と称した。

## 弓町

江戸城の鬼門に当るので、御弓組の与力同心六組がおかれ、毎日的場で弓を射させていたため、里俗に御弓町と称した。その後、里俗の称により、御の字をとって町名を本郷弓町とした。

## 金助町

幕府の役人、牧野金助の拝領地であったため、金助町と称した。

## 春木町

武家屋敷となる前に、霊験が評判の伊勢の御師、春木太夫がここに旅宿していた跡なので、その名をとり本郷春木町と称した。

## 真砂町

真光寺門前と称し、その頃から町奉行支配であった。今の桜木神社前の一部だけが町家であったが、古庵屋敷を併せて真砂町の新町名と称した。浜の真砂のかぎりないようにと、町の限りない繁栄を期待して命名されたと伝えられる。

## 菊坂町

本郷辺が町家となった時、この辺一帯に菊畑があり、菊花を作る者が多く住んでいたため、同所の坂を菊坂と唱え、坂の上の方を菊坂台町、坂下の方を菊坂町と称した。

## 台町

古くは本郷の農地で、空地が多く、菊ほか草花を一円に作っていた。幕府中間方三組の大縄地となり、町家が開かれ、その頃より町奉行支配となった。高台であったので、菊坂台町と名づけられた。本郷六丁目続横町及び喜福寺裏門前を合併し、菊坂の二字をとり、本郷台町とした。

## 森川町

江戸時代は森川宿と称した。岡崎藩主本多氏の屋敷地と、先手組屋敷跡を併せて、里俗の森川宿から本郷森川町と称えることになった。

## 本富士町

駒込富士浅間神社が元ここにあったので本富士と称した。

## 湯島

昔は武州豊島郡峡田領芝崎村と称し、次第に町家となった。私名として使っていた湯島を町名とした。なお、湯島の由来は明らかになっていない。

## 湯島新花町

代地としてこの地に隠殿が設けられて、家来衆も住んだ。のちに、隠殿は取り払われ、町家が作られ、新町屋と呼ばれた。隠殿跡地に大根を作ったため、大根島と呼ばれた。また野菜や草花を栽培したため、里俗に御花畑、大根畑と呼ばれた。付近の武家地、寺地を併せ、町名は新町屋と御花畑からとって湯島新花町とした。

## 湯島天神町

むかし農地で、武州豊島郡峽田領湯島郷と呼ばれた。湯島天神の境内で、慶長十九年(一六一四)、町家を開き、寺社奉行の支配を受けたが、寛文四年(一六六四)から町奉行支配になった。湯島天神の門前なので、湯島天神門前町と唱えた。明治二年(一八六九)、天神下宝性院門前を併せて湯島天神町と改めた。

## 湯島同朋町

幕府の役職である同朋の拝領地となり、湯島天神の下にあったので、湯島天神下同朋町と称した。のちに、天神下をとって、湯島同朋町と改称した。

## 湯島梅園町

湯島天神社地門前と称した。のちに、湯島梅園町と改称した。

## 湯島三組町

徳川家康が駿府で亡くなったので、江戸へ召し返された中間、小人、駕籠方の三組の者の大縄地となった。町内西の方の横町を里俗に駿河町と呼んだのは、その地主が駿河から帰ったためである。その後、町家を開き、三組の御家人元が拝領した土地なので三組町と名づけられた

## 妻恋町

妻恋神社の近辺なので、妻恋町と名づけられた。

## 湯島切通坂町

湯島天満宮の北側、現在の春日通りの切通坂を隔てて南北にあった。南部はもと棟梁屋敷といい、北部は切通片町と称した。のちに、この両町を併せて、湯島切通坂町とした。町名は切通坂からとった。

## 湯島切通町

切通坂が南側にあるので町名とした。

## 湯島両門町

講安寺門前、称院門前町として開かれた町家である。この二つを併せて、両寺の門前なので両門町と名づけられた。

## 龍岡町

榊原家の下屋敷(はじめは中屋敷)及び武家屋敷で、明治五年(一八七二)、下谷茅町一丁目に編入されたのを、同七年(一八七四)に分けて一町として龍岡町と命名した。向ヶ岡の丘陵に立てた町で、縁起の良い龍の字を配し、龍岡町とした。